

THE 1997 JRA CLASSIFICATIONS

'97 JRAクラシフィケーション決定!

4歳6頭、5歳以上17頭の日本馬が国際格付けされる。



1977年、英愛仏3国での出走馬を対象として発足したインターナショナルクラシフィケーションは、85年西独、伊がこれに加わり、さらに94年には北米も加わって欧米統一のクラシフィケーションが実現された。一方62年（昭和37）から優駿誌上で公表されてきたJRAのフリーハンデは、長らく国内だけの基準による格付けで行われてきたが、近年ジャパンカップをはじめとする国際競走の増加により、出走外国馬の能力評価についてインターナショナルクラシフィケーションとJRAとの整合が求められる等、同一基準によるフリーハンデの作成が課題となってきた。そのため93年よりオブザーバーとして参加してきたインターナショナルクラシフィケーション会議を踏まえて、94年に評価重量の大幅な見直しを行い、95年には名称をフリーハンデからJRAクラシフィケーションに変更、また96年はインターナショナルクラシフィケーションにおいてジャパンカップ以下7つの国際競走出走馬が新たに対象となるなど、欧米との統一に向けての態勢が徐々に整えられてきたわけであるが、97年は晴れてインターナショナルクラシフィケーションに全面移行する年となった。昨年までは、まだ重賞競走の多くが外国馬に門戸を閉じており、依然として有馬記念あるいは天皇賞が頂点の一方にあるといった国内的な体系も重視せざるを得ない事情に加えて、インターナショナルクラシフィケーションにリストアップされる日本馬も外国の競走で実績をあげた馬に限られていたこと等から、インターナショナルクラシフィケーションの数値を尊重しつつも、JRAのものとしてはそれに概ね5キロ差を認めるというような作成方法がとられてきた。

しかしながらここに来て、わが国の競馬は、ブリーダーズC、ドバイワールドCをはじめ海外挑戦が頻繁となり、またそれ以上に日本人オナー等海外市場への参入が日常化し、さらには国内供用種牡馬やその産駒の海外進出もあるといった状況を迎えている、それら今日の状況を考えると、クラシフィケーションの本来的な意義、つまりわが国のみならず

●1997年インターナショナルクラシフィケーション (日本関係分)

4歳 (8頭)

順位	キロ	馬名 (生産国)	性別	血統 (父)	S	M	I	L	E	馬主	調教師
121	55.0	カイトノ (英)	牡4	(Niniski Everance)				121		シュタル・ブラウア	B.シュッツ
120	54.5	シルクジャスティス	牡4	(Zaidan Jastice)				120		衛シルク	大久保 正陽
119	54.0	アスタラバド (米)	牡4	(Alleged Araca)				119		アガ・カーン殿下	A.ロウエツ
		タイキシャトル (米)	牡4	(Devil's Bag Welsh Muttin)			119			衛大樹ファーム	藤沢 和雄
113	51.5	メジロロベール	牝4	(メジロロベール)				113		衛メジロ商事	大久保 洋吉
112	51.0	キョウエイマーチ	牝4	(King's Joy March)			112			松岡 正雄	野村 彰彦
		スピードワールド (米)	牡4	(Wooden Gray Tab)			112			松岡 正雄	小西 一男
110	50.0	ワシントンカラー (米)	牡4	(Black Tie Affair Jump With Joy)	110					衛テンジン	松山 康久

5歳以上 (23頭)

順位	キロ	馬名 (生産国)	性別	血統 (父)	S	M	I	L	E	馬主	調教師
134	61.0	ビルサドスキー (愛)	牡6	(Polish Precident Cocotte)			134	128		ウェインストック卿	M.スタウト
124	56.0	オスカーシンドラー (愛)	牡6	(Royal Academy Saraday)				124		O.レーン	K.フレグスト
121	55.0	ハブルガムフェロー	牡5	(Hubble Gumbel)				121		衛社台レースホース	藤沢 和雄
119	54.0	エアグルーヴ	牝5	(Air Groove)				119		衛ラッキーフィールド	伊藤 雄二
		マーベラスサンデー	牡6	(Marvelous Sunday)				119		笹原 貞生	大沢 真
118	53.5	サクラローレル	牡7	(Rainbow Quest)				118		衛さくらコマース	小島 太
		ツクバシフォン (英)	牡5	(Danhill Lyndonville)				118		細谷 昭夫	伊藤 正徳
117	53.0	モンズ (英)	牡5	(Deploy Moria)				117		E.ヴェスティ	L.クマニ
116	52.5	タイキプリザード (米)	牡7	(Seattle Shew Tree of Knowledge)			116			衛大樹ファーム	藤沢 和雄
115	52.0	ジェニユイン	牡6	(Sanjour Janyu)			115			衛社台レースホース	松山 康久
		メンスイクスグループ (米)	牝5	(Exclusive Ribot Men's Number)			115			H.E.リード	W.A.ワード
114	51.5	キスデナ (仏)	牡5	(Miswaki Makrou)			114			ヴェルテメール・エ	C.ヘッド
		ホクトベガ	牝8	(Takuhoku Vega)				114		衛森森商事	中野 隆良
		ローゼンカバリー	牡5	(Rose of Jericho)				114		衛社台レースホース	鈴木 康弘
113	51.5	シンコウキング (愛)	牡7	(Fairy King)			113			安田 修	藤沢 和雄
		スギノハヤカゼ (米)	牡5	(Diess Chelva)			113			杉江 義夫	鹿戸 幸治
112	51.0	ダンスパートナー	牝6	(Dance Partner)				112		吉田 勝己	白井 寿昭
111	50.5	アマジックマン (仏)	牡6	(The Wonder Man)			111			保手浜 弘規	R.マッカナリー
		シンカイウン	牡6	(Shinkai Un)			111			林 幸雄	二分 久男
		ユウトウセイ	牡8	(Yuto Sei)			111			衛アイテツ	田中 章博
		ロイヤルタッチ	牡5	(Royal Touch)			111			大田 美実	伊藤 雄二
		ベストタイアップ	牡6	(Best Tie Up)			110			吉田 昭哉	松山 康久
110	50.0	ロイヤルスカ (愛)	牡5	(Royal Academy Godzila)			110			永井 啓武	橋田 満

※対象馬はJRAの国際競走出走馬 (9競走) 及び海外遠征馬で総合評価110ポンド以上を得た馬。なお、ベストタイアップについては、'96年に格付けされたことから対象馬となった。

[ハンデキャッパー]

●本部

甲佐勇

●栗東トレーニング・センター

古橋明、小林善一郎、井上真、又野一仁、牧村憲治

●美浦トレーニング・センター

西田研、蛭名哲士、尾関道春、大田康二

世界の生産者、馬主、調教師、市場関係者としてファンにとって、競走馬の能力の指標となるべき役割は非常に重要であり、94年以降の準備段階を経てJRAクラシフィケーションは、欧米と統一のものとして、新たに世界の視点に立つというスタンスをもってその使命を果たすべき時機にきているものと判断されるに至った。またこれには、近い将来日本馬についても国際競走に出走した馬に限らず、わが国の競走で110ポンド以上の評価を得た馬は、インターナショナルクラシフィケーションでリストアップされるという(北米馬と同じ取扱)方向が同会議で示唆されていることも背景にあることを付け加えてお

きたい。97年インターナショナルクラシフィケーションは1月13日ロンドンで発表されたが、JRAも正式メンバーとしてその席に着いており、これを契機に欧米と同一歩調をとり、共通の数値をもって新たなスタートをきるには相応しい年といえよう。

以上から1997年度以降のJRAクラシフィケーションは、インターナショナルクラシフィケーションと軌を一にするということとで、その作成、発表は以下により行うこととするが、欧米の基準に照らした評価となることと、自ずとより開かれた競走である国際競走が重視されるという点については、基本姿勢として改めてここで強調しておきたい。

- JRAの競走に出走した外国馬でインターナショナルクラシフィケーションで110ポンド以上の評価を得た馬 (別表)
 - (2) 年齢区分
 - 3歳、4歳、5歳以上の3区分とする。
 - 但し、ダートについては4歳以上とし別部門とする。
 - (3) 距離区分
 - S (1000m ~ 1300m) = Sprint
 - M (1400m ~ 1800m) = Mile
 - I (1900m ~ 2100m) = Intermediate
 - L (2200m ~ 2700m) = Long
 - E (2800m以上) = Extended
- 但し、3歳については距離は区分しない。なお、評価の単位はポンド (キログラム併記) とする。

※1ポンド=0.4536キログラム

5歳以上 エアグルーヴ、バブルガムフェローの JC出走組が上位

97年の古馬戦線は「充実」という言葉を使いたいものとなってしまった。サクラローレルとマヤノトップガンが相次いでリタイアし、マーベラスサンデーも秋は1戦のみ。この3強が1年を通じて活躍できなかったのは、秋は短距離路線を中心に4歳馬の頑張りも目立ち、古馬上位勢に対する評価は例年よりやや低いというのが全体の印象だ。

傑出馬不在の秋シーズンを大いに盛り上げてくれたのがエアグルーヴ。牝馬としては17年ぶりの天皇賞・秋制覇を果たし、続くジャパンCではビルサドスキーに肉薄、有馬記念でも3着。史上最強牝馬という声も聞ける力走を見せた。ジャパンCでビルサドスキーが示したパフォーマンス124ポンドとの比較からエアグルーヴには119ポンドというレイティングが与えられたが、これは同じ

く5歳時ジャパンC2着だったヒシアマゾンより1ポンド上位。日本馬の数字のうえで97年度トップはバブルガムフェローだが、セックスアローウンス (牝馬はプラス4ポンドで見ると) を考慮すればエアグルーヴが堂々の最上位となる。中距離部門でも天皇賞・秋が評価されて116ポンドとやはり日本馬ではエアグルーヴが実質トップである。なお、別表のビルサドスキーの中距離134ポンドは愛チャンピオンS1着、長距離128ポンドは凱旋門賞2着による数値である。(参考までに世界No.1の評価をされたのは凱旋門賞を圧勝した4歳馬パントルセルレブルで137ポンド)

97年秋シーズンの主役と目されていたのは前年秋の天皇賞で3強を破った実績を持つバブルガムフェローだったが、秋緒戦の毎日王

●1997年JRAクラシフィケーション (5歳以上・芝)

順位	キロ	馬名(生産国)	性齢	血統	父	S	M	J	L	E
121	55.0	バブルガムフェロー	牡5	サンデーサイレンス	バブルガムフェロー			119	121	
120	54.5	マヤノトップガン	牡6	サンデーサイレンス	マヤノトップガン					120
119	54.0	エアグルーヴ	牝5	トニービン	エアグルーヴ			116	119	
		マーベラスサンデー	牡6	サンデーサイレンス	マーベラスサンデー				119	
118	53.5	サクラローレル	牡7	Rainbow Quest	サクラローレル					118
		ツクバシフォン(英)	牡5	Danehill	ツクバシフォン				118	
116	52.5	タイキブリザード(米)	牡7	Seattle Slow	タイキブリザード		116		116	
115	52.0	ジェニユイン	牡6	Seattle Slow	ジェニユイン		115			
114	51.5	ローゼンカバリー	牡5	サンデーサイレンス	ローゼンカバリー				114	
113	51.5	シンコウキング(愛)	牡7	Fairy King	シンコウキング	113				
		スギノハヤカゼ(米)	牡5	Diesis	スギノハヤカゼ	113				
112	51.0	オースミタイクーン(愛)	牡7	Least Tycoon	オースミタイクーン				112	
		ステージチャンプ	牡8	リアルシヤタイ	ステージチャンプ					112
		ダンスパートナー	牝6	サンデーサイレンス	ダンスパートナー				112	
111	50.5	シンカイウン	牡6	シンチエス	シンカイウン		111			
		ティエムオオアラシ	牡5	セクレタスター	ティエムオオアラシ				111	
		ユウトウセイ	牡8	スズキニユード	ユウトウセイ			111	111	
		ロイヤルタッチ	牡5	サンデーサイレンス	ロイヤルタッチ			111	111	
110	50.0	イシノサンデー	牡5	サンデーサイレンス	イシノサンデー			110		
		エアダブリン	牡7	トニービン	エアダブリン				110	
		ベストタイアップ	牡6	アンバーシャダイ	ベストタイアップ		110			
		ロイヤルズスカ(愛)	牡5	Royal Academy	ロイヤルズスカ		110			
109	49.5	エリモシク	牝5	ダンスオブブレイヴ	エリモシク				109	
		グルメフロンティア	牡6	トウショウボーリス	グルメフロンティア			109		
		プレストンポリ(愛)	牝6	Waajib	プレストンポリ		109			
108	49.0	キングオブダイヤ	牡6	サンデーサイレンス	キングオブダイヤ		108			
		シンコウフォレスト(愛)	牡5	Green Desert	シンコウフォレスト	108				
		ゼネラリスト(英)	牡5	Danehill	ゼネラリスト				108	
		ナムラホームズ	牡5	タイキブレイク	ナムラホームズ		108			
		ビコーベガサス(米)	牡7	Danzig	ビコーベガサス		108			
		ビッグシンボル	牡5	リアルシヤタイ	ビッグシンボル					108
		マイネルブリッジ	牡6	ハルビン	マイネルブリッジ			108		
		マサラッキ	牡5	ローズマントリー	マサラッキ		108			
107	48.5	マウンテンストーン	牡5	ダンスオブブレイヴ	マウンテンストーン				107	
		ユウセンショウ	牡6	ユウセンショウ	ユウセンショウ					107
106	48.0	エイシンサンサン	牡6	エイシンサンサン	エイシンサンサン				106	
		エイシンパーリン(米)	牡6	Blade of Luck	エイシンパーリン	106				
		マイヨジョンヌ	牡8	リヴァイフ	マイヨジョンヌ			106		
105	47.5	アロハドリーム	牡5	クリエーター	アロハドリーム			105		
		シグナスヒーロー	牡6	イナリワン	シグナスヒーロー				105	
		タイキマーシャル(愛)	牡6	Dance of Life	タイキマーシャル		105			
		ティエムジャンボ	牡7	クリスタルクリックス	ティエムジャンボ			105		
		ヒシアケボノ(米)	牡6	Woodman	ヒシアケボノ	105	105			
104	47.0	オウサイトトラップ	牡7	トラコウヤロ	オウサイトトラップ		104		104	
		ショウリノメガミ(米)	牝7	Mr. Prospector	ショウリノメガミ		104			
		フローレスリーフ	牝6	ミルジョージ	フローレスリーフ				104	
		マルカタイシス(米)	牡5	Elouquent Minister	マルカタイシス				104	
103	46.5	インターユニーク	牡7	クマモクロー	インターユニーク				103	
		オースミマックス	牡7	サクラユタカオー	オースミマックス		103			
		クラウンジー	牡8	フルゼンスキ	クラウンジー		103			
		セイントリファール(米)	牡5	Lynchard	セイントリファール			103		
		タイキフューン(米)	牡5	Seattle Dancer	タイキフューン		103			
		ダンディコマンド	牡5	ニホンビロウイヤー	ダンディコマンド		103			
		トウカイタロー	牡8	ニホンビロウイヤー	トウカイタロー			103		
		メジロランバダ	牡5	テリオス	メジロランバダ				103	
102	46.5	イクタモンヤグラ	牡6	キャロルハウス	イクタモンヤグラ				102	
		シングライクオーク	牡6	シーザード	シングライクオーク		102			
		ナリタキングオー	牡6	Wind Again	ナリタキングオー			102		
		ファントリショウリ	牡7	ニホンビロウイヤー	ファントリショウリ		102	102		
		ヤシマノプリン	牡7	ニホンビロウイヤー	ヤシマノプリン		102			
		ユノペンタゴン(米)	牡5	Red Ransom	ユノペンタゴン		102			
101	46.0	エイシンガイモン(米)	牡5	Seattle Dancer	エイシンガイモン	101	101			
		クロカミ(愛)	牡5	Caerleon	クロカミ		101			
		ゲイリーイーグル(愛)	牡5	Mulhid	ゲイリーイーグル			101		
		サクラエキスパート	牡5	サクラエクスパート	サクラエキスパート			101		
		サージュウェルズ(愛)	牡7	Sadler's Wells	サージュウェルズ				101	101
		バルブライ	牡6	ベイズバトラー	バルブライ				101	
		ピコアルファ	牡8	クリレン	ピコアルファ		101			
		フェアダンス	牡6	フェアダンス	フェアダンス				101	
		ホウエイコスモス	牡7	ミスターガスタ	ホウエイコスモス				101	
100	45.5	アグネスカミカゼ	牡5	サンデーサイレンス	アグネスカミカゼ				100	
		エルウェーウィン(愛)	牡8	Caerleon	エルウェーウィン				100	
		グローリーシャルマン	牡8	カッティングブレード	グローリーシャルマン		100			
		ペルウイナー	牡6	ニホンビロウイヤー	ペルウイナー		100			
		ヤマニンバラダイス(米)	牡6	Danzig	ヤマニンバラダイス		100			
		以上75頭								

冠こそ実力の確かさをアピールしたもの、その後はエアグルーヴに対して天皇賞・秋が2着、ジャパンCが3着と2戦続けて惜敗。健闘は称えられるが、エアグルーヴとの着差は、それぞれクビ、1馬身差であったことから中距離119ポンド、長距離121ポンドという評価になった。

バブルガムフェローを宝塚記念で負かし、有馬記念ではエアグルーヴにも先着したのがマーベラスサンデー。だが宝塚記念は決してレベルの高いレースとはいえず、有馬記念でも4歳馬シルクジャステイスの後塵を拝している。GI未勝利だった前年より上であることは確かだが、そのあたりから、やはり国際

的な評価となると、ジャパンCで欧州の古馬のトップホースであるビルサドスキーに肉薄したエアグルーヴやバブルガムフェローが上位となったのも無理のないところだ。

GIを2勝した4歳時と同程度の評価とまではいかなくとも、天皇賞・春のレース内容では濃かったマヤノトップガンは120ポンド、休み明けの不利を克服して同レース2着のサクラローレルは118ポンド。従来ならそれよりも少し高い評価が与えられてもいいところだが、天皇賞は内国産限定であり、3200gという距離の特殊性もあってこの数値となった。

中長距離路線より層の薄さが目立ったのが

マイル以下の路線だ。過去2年の安田記念で3着、2着と順位を上げてきたタイキブリザードが97年は順当に優勝したが、これは「上にいた強い馬がいなくなった結果、勝つ順番が回ってきた」とも取れる。マイル部門のトップであることは間違いないが、116ポンドと96年並みの評価で、次位は同レース2着のジェニユインという順序。短距離路線も、秋シーズンには4歳馬にいいように暴れ回られたという印象が強く、トップが高松宮杯勝馬シンコウキングとスプリンターズS2着スギノハヤカゼの113ポンドと評価は高くない。

その他の馬については表(5歳以上部門)をご覧ください。おそくすべてのフ

THE 1997JRA CLASSIFICATIONS

ポンド・キログラム換算表
(1ポンド=0.4536kg)

Rating	Kgs
141	64.0
140	63.5
139	63.0
138	62.5
137	62.0
136	61.5
135	61.0
134	61.0
133	60.5
132	60.0
131	59.5
130	59.0
129	58.5
128	58.0
127	57.5
126	57.0
125	56.5
124	56.0
123	56.0
122	55.5
121	55.0
120	54.5
119	54.0
118	53.5
117	53.0
116	52.5
115	52.0
114	51.5
113	51.5
112	51.0
111	50.5
110	50.0
109	49.5
108	49.0
107	48.5
106	48.0
105	47.5
104	47.0
103	46.5
102	46.0
101	45.5
100	45.0

●1997年JRAクラシフィケーション (4歳・芝)

順位	斤量	馬名(生産国)	性別	血統	入賞	S	M	I	L	E
120	54.5	シルクジャスティス	牡4	フサイチンスタイル ユウフルド					120	
119	54.0	⑧ タイキシャトル(米)	牡4	Devil's Bag Welsh Muffin		118	119			
115	52.0	サニーブライアン	牡4	フサイチンスタイル サニースイフト					115	
114	51.5	マチカネウキタル	牡4	クリスタルグリッターズ アサナトウシヨウ						114
113	51.5	④ メジロドーベル	牝4	メジロビビューティー				113	113	
112	51.0	キョウエイマーチ	牝4	ダンシングブレーヴ キョウエイマルマン			112			
		⑧ スピードワールド(米)	牡4	Woodman Gray Tab			112			
		ダイワオーシュウ	牡4	リアルシャダイ ダイワオーシュウ					112	
		④ メジロブライト	牡4	メジロブライト レルデュータン					112	112
111	50.5	エリモダンディー	牡4	フサイチンスタイル エリモダンディー					111	
		トキオエクセレント	牡4	ゴールドエンサント アツタニササン						111
		⑧ トーヨーレイボ(米)	牡4	Deputy Minister Double Wiggle		111				
110	50.0	⑧ シーキングザパール(米)	牝4	Seeking the Gold Page Proof			110			
		⑧ ブレーブテンダー(米)	牝4	Gulch Laford			110			
		④ ランニングゲイル	牡4	ランニングフリー ミルダンス					110	
		⑧ フジントンカラー(米)	牡4	Black Tie Affair Jump With Joy		110				
109	49.5	④ エアガッツ	牡4	メジロブライト ショウワフライド						109
108	49.0	サイレンススズカ	牡4	サイレンス サイレンス				108		
		シルクライトニング	牡4	フサイチンスタイル ミスビーナ				108		
		マイネルマックス	牡4	フサイチンスタイル マイネルマックス		108				
107	48.5	ショウナンナンバー	牡4	ジョイロバリー メジロフィニッシャー			107			
		ナナヨーウイング	牝4	セレスティアルストーム ナナヨーウイング					107	
		⑧ プレミアムサンダー(米)	牡4	Easy Goer Seattle Dawn			107			
106	48.0	⑧ タイキエルドラド(米)	牡4	Theatrical Royal Bride					106	
		トウジントルネード	牡4	サンダーサイレンス ランニングブライト						106
		パルスビート	牡4	ブルーハヴィ					106	
		⑧ ヒコキグモ(愛)	牡4	Keen Bahrain Star		106				
		④ フジヤマビザン	牡4	フサイチンスタイル ブルーハヴィ				106		
105	47.5	④ エイシンカチータ	牝4	ハッパアトラス エイシンハビネス				105	105	
		オレンジピール	牝4	ハッパアトラス ハッパアトラス		105	105			
		オースミジェット	牡4	ジョイロバリー サンサンオート		105				
		ステイゴールド	牡4	サンサンオート ゴールドサンショウ						105
		セイリユーオー	牡4	フサイチンスタイル ランドライラ		105	105			
		ダイイチシガー	牝4	タイチルビー					105	
		ティエムトップダン	牡4	ダンシングブレーヴ ティエムトップダン			105			105
		ビッグサンデー	牡4	サンサンオート ビッグサンデー		105				
104	47.0	④ シャコーテスコ	牡4	スズビ スズビ					104	
		④ パーソナリティワン	牡4	スズビ スズビ		104				
		ホーネットピアス	牝4	サンサンオート サンサンオート		104				
103	46.5	エアウイングス	牡4	サンサンオート サンサンオート			103			
		⑧ オープニングターマ(米)	牡4	Seeking the Gold All About Style		103				
		⑧ グリーンブラン(愛)	牡4	Darshaan Formulate		103				
		スカーレットメール	牝4	スズビ スズビ		103				
102	46.5	エアリパティ	牡4	ジョイロバリー ジョイロバリー			102			
		オースミサンデー	牡4	サンサンオート サンサンオート			102			
		グレースアドマイヤ	牝4	ジョイロバリー ジョイロバリー			102			
		⑧ スーパーナカヤマ(米)	牡4	Jolie's Halo Sarfoxa Girl		102				
		⑧ バームシャドウ(米)	牡4	A.P. Indy Rue de Palm		102				
		ヒダカブライアン	牡4	フサイチンスタイル フサイチンスタイル			102			
		プロモーション	牝4	サンサンオート サンサンオート					102	
		⑧ ホッコービューティ(米)	牝4	Gulch Confederance		102				
101	46.0	スキノグッドラック	牡4	サンサンオート サンサンオート		101				
		メイプルシロップ	牡4	サンサンオート サンサンオート			101			
100	45.5	④ キタサンブート	牡4	サンサンオート サンサンオート		100				
		トニーザグレート	牡4	サンサンオート サンサンオート			100			
		⑧ ベイストリーシェフ(米)	牡4	Chif's Crown Top Tart		100				
		ワンダーステラ	牝4	サンサンオート サンサンオート		100				

以上57頭



春の評価は低く、秋に急上昇した世代 短距離路線での活躍も目立つ

4歳

皇月賞、ダービーの2冠を制したサニーブライアンには、本来なら最上級の評価が与えられてしかるべきだろう。2分25秒9というダービーの勝ちタイムは立派だが、今年の4歳牡馬のレベルは(少なくとも)春の時点では決して高くなかった。そもそも96年の3歳チャンピオンであるマイネルマックスに対する評価が低く、別路線を勝ち上がってきた注目を集めたメジロブライトが、トライアル、本

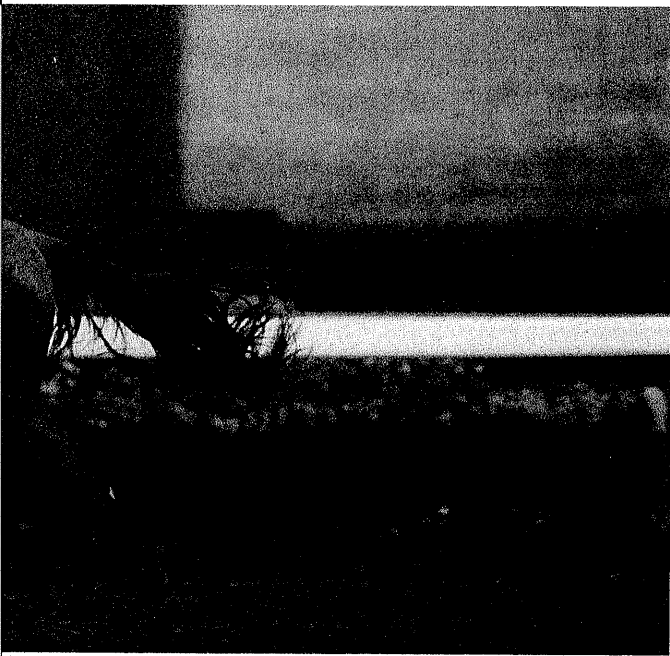
アンが納得できるというものではないはずだ。冒頭で述べたように国際GIであるジャパンCを最重視し、各馬のベストパフォーマンスをそのまま採用するなど、本年から評価方法が変更されたことによる影響だと考えていた

だいたい。マヤノトップガンやサクラローレルのレイティングがやや抑えられた反面、ジャパンC7着のツクバシンフォニーなどが高いレイティングを得ているのが一例である。

番と続けて惜敗したように、世代全体のレベルは「低い位置で拮抗している」というのが当初の見方だった。なにより、3歳戦からの戦いぶりにさして見るべきもののなかったサニーブライアンに楽々と逃げ切られてしまったことから、この見方が間違っていたのはなかったことがわかる。ウイナーズサークルの世代、すなわち89年クラシック組に次ぐレベルの低さという意見も出されたが、あながちオーバーな表現ではないだろう。こうしたことからサニーブライアンには、2冠の実績を尊重して95年のタヤスツヨシよりは上、世代レベルの低さを考慮して96年のフサイチコンコルドより下に相当する1115ポンドが与えられた。

2冠馬不在の菊花賞を勝ったマチカネフクキタルに対する評価は難しいところだ。菊花賞はスローペースでの切れ味勝負になったものであり、歴代の菊花賞馬やライバルたちと比べて飛び抜けた実力を持っているとはいえない。ただし菊花賞で負かしたメジロブライトやエリモダンディーらが菊花賞の後に古馬相手の重賞を勝利し、4歳全体では芝の古馬混合の重賞で10勝をマークしている。秋になって急速に世代としての力が付いたとも判断でき(古馬の層が薄かったこともあるが)、そのなかでトライアルからの3連勝を飾ったのだから、2冠馬サニーブライアンは超えないもののそれに次ぐ1114ポンドが与えられることになった。

秋の中長距離戦線で4歳馬として唯一孤軍奮闘したのがマーベラスサンデー、エアグル



THE 1997 JRA CLASSIFICATIONS

●1997年JRAクラシフィケーション (3歳)

順位	キロ	馬名(生産国)	性別	血統	父	母	所属
116	52.5	⑧ グラスワンダー(米)	牡3	Silver Hawk	Ameriflora		
111	50.5	⑧ キングヘイロー	牡3	クインズクレープ	クインズヘイロー		
110	50.0	⑧ マイネルラヴ(米)	牡3	Seeking the Gold	Heart of Joy		
		⑧ ロードアックス(米)	牡3	Woodman	Peri		
109	49.5	⑧ フィガロ(米)	牡3	Future Storm	Karames		
107	48.5	⑧ アグネスワールド(米)	牡3	Dancig	Mysteries		
106	48.0	⑧ アインブライド	牡3	ゴッドブレイク	インテラ		
		⑧ ロンドシプリッジ	牡3	ドクターフィッシュ	オールドワールド		
105	47.5	⑧ ボールドエンペラー	牡3	キングスローリアス	キングスローリアス		
104	47.0	⑧ アイアムザプリンス(米)	牡3	Summer Savant	Dainserly		
		⑧ クリールサイクロン	牡3	ゴッドブレイク	インテラ		
		⑧ モーリサバイバル	牡3	ダンクフレイブ	トップコート		
103	46.5	⑧ キュンティア(英)	牡3	Darshaan	One Life		
		⑧ シンコウノビー(米)	牡3	Nashwan	Christabelle		
		⑧ タケイチケントウ	牡3	ドクターフィッシュ	オールドワールド		
		⑧ ダンツシリウス	牡3	グッドホース	スイートホーム		
		⑧ パルシファル	牡3	グッドホース	スイートホーム		
102	46.5	⑧ サラトガビューティ	牡3	アジサイクイン	サトウハチロー		
		⑧ シンコウエドワード(米)	牡3	Lear Fan	Powder Storm		
		⑧ シンボリスワード(愛)	牡3	Green Desert	Kenbu		
		⑧ テイエムオーロラ	牡3	クラッシュ	ジョイナ		
		⑧ レディステラ(米)	牡3	Crafty Prospector	Maggie J. Jones		
101	46.0	⑧ エモシオン	牡3	アドヴァン			
		⑧ ショウナンハビス(加)	牡3	Kris S.	Rambling Barb		
		⑧ ダイワリブル(米)	牡3	Gone West	Silken Ripples		
		⑧ タマルファイター	牡3	キングスローリアス	イズミクリ		高崎
		⑧ タヤスアゲイン	牡3	サリオン	アレン		
		⑧ タヤスチェリー	牡3	ロドリゴ	アリア		
		⑧ ニホンピロジュビタ	牡3	オスカー	ハウス		
		⑧ ヘイアンインザ(米)	牡3	Meadowlake	Explosive Girl		
		⑧ マイネルエルザ	牡3	サリオン	アレン		
		⑧ ヤマニトランザム	牡3	ヘクター	プロクター		
100	45.5	⑧ インテリパワー	牡3	ルンディ	ラフ		北海道
		⑧ エイダイクイン	牡3	スプリング	サライ		
		⑧ シンリズム	牡3	リム	ウィンド		
		⑧ ドクトリン	牡3	ドクターフィッシュ	オールドワールド		
		⑧ ビッグランプリ	牡3	グッドホース	スイートホーム		
		⑧ ファレノブシ	牡3	グッドホース	スイートホーム		
		⑧ マイネルクラシック	牡3	グッドホース	スイートホーム		
		⑧ マイネルメッサー(米)	牡3	Diasis	Dietre d'Amour		
		⑧ マチカネサンシロー(米)	牡3	Dietre d'Amour	Refill		

以上41頭

1ウという強敵を下して有馬記念制覇を成し遂げたシルクジャスティスだ。クラシックロードではダービー2着、菊花賞5着と涙を飲んだが、ダンスパートナーを差し切った京都大賞典、ジャパンCでの5着好走、そして有馬記念と終盤に4歳トップともいえる実績を残して120ポンドを獲得。菊花賞と有馬記念を勝ったマヤノトップガンの4歳時の評価が122ポンドであることから、これとの比較からも妥当なところだ。

牡馬戦線が一戦ごとに混迷の度を深めていったのに対し、牝馬戦線はその都度しっかりとした主役が存在し、結果もおおむね順当なところに収まったといえるだろう。オークスと秋華賞を制し、オールカマーでは古馬を一蹴したメジロドーベルは歴代女王のなかでもトップクラスの強さという評価がなされて113ポンド、次いで、桜花賞を勝ち、秋華賞とマイルCSで2着したキョウエイマーチが112ポンドのレイティング。NHKマイルCの覇者シーキングザパールの実力も前記2頭と遜色なく、110ポンドが与えられた。ただし、この3頭に続く存在が見当たらない。

つたというのが今年の4歳牝馬勢の特徴。秋になっても3歳の図式は崩せず、一年を通じて全体の層は薄かったといえる。

やや辛口の評価がなされたクラシック組に對して、マイルCSとスプリンターズSを史上初めて連覇したタイキシャトルには「年度代表馬の座を十分に争える馬」など絶賛に近い声が集まった。フラワーパークの力にやや翳りが感じられ、シンコウキングが春の短距離路線組にも上積みがないなど古馬陣が手薄だったとはいえ、展開に左右されないレースぶり、相手をねじ伏せるような強さ、マイルより、1200mより、ダートもOKという底力への評価はかなり高い。同じく4歳でスプリンターズSを勝ったヒシアケボノより上位なのは確実で、4歳で天皇賞・秋を制した昨年のバブルガムフェローに近い評価が妥当として119ポンド、4歳ナンバー2の地位を獲得した。

その他の馬については表をご覧ください。また、クラシックやマイル路線で好走した馬が上位に顔をみせているなかで、プレミアムサンダーやタイキエルドラドら別路線組も高いレイティングを獲得していることに要注目。

外国産馬が99勝、抽せん馬が38勝、ともに過去最高の勝ち鞍をマーク。外国産馬はレベルも高く、重賞12レース中6レースを制したように活躍が目立った。また抽せん馬は仕上がりや早さを生かして夏シーズンから全開で活躍した。ただ夏の活躍馬全体をみると、寂しい内容に終わっている。アグネスワールドが大幅に相手の弱化した川崎の全日本3歳優駿を勝ったものの、アイアムザプリンス、クリールサイクロン、タケイチケントウといった夏のチャンピオンは揃って秋は未勝利。期待馬が秋になって次々とデビューし厳しい戦いを強いられることが影響したかつこうだが、成長力にも疑問符が付く。恐らく今後、夏と秋の勢力図が必ずしもイコールではないという状況が続くだろう。

さて「化物のようなあの馬」の話は後に置

いておくとして、まずその他の牝馬勢から。マイネルラヴ、フィガロの朝日杯上位組と、キングヘイロー、ロードアックスのラジオたんぱ杯組に對しては、昨年トップのマイネルマックス(今年の値に置き換えると109ポンド相当)と同等以上の評価が与えられた。3連勝の後、不利のあったラジオたんぱ杯3歳Sでも決定的2着を確保したキングヘイロー、朝日杯2着ながらタイレコードで駆けていくマイネルラヴらは、例年ならトップとなるかもしれない馬だが、「あの馬」がいたがための2番手評価である。

牝馬はチャンピオンのアインブライドが順当に最上位で、以下も阪神3歳牝馬Sの上位馬が続く。ただし、特に傑出した馬はなく、スエヒロジョウオーの年と同程度」との意見も出たように世代全体のレベルに対する評価は

グラスワンダーに絶賛の嵐 116ポンドはマルゼンスキーを超える

3歳

●1997年JRAクラシフィケーション (4歳以上・ダート)

順位	キロ	馬名(生産国)	性別	血統(父)	S	M	I	L	E	所属
115	52.0	タイキシャロック	牡6	ジェイドロバリー ヒラロース		115				
114	51.5	ホクトベガ	牝8	ナグラスキー ナグタルコロン			114			
113	51.5	⑧ キョウトシチー	牡7	サックホービー マウテンタイン			113			
		シンコウウインディ	牡5	デュークマウンター		113				
		⑨ トーヨーシアトル(米)	牡5	Deputy Minister City Dance				110	113	
112	51.0	⑨ ストーンステッパー(米)	牡5	Crafty Prospector Cassidy	108	112				
111	50.5	⑨ アブクマポーロ	牡6	クリスタルブリックス ハンジューウエー			111			船橋
110	50.0	⑨ デュークグランプリ	牡7	ラスカコハン ラズカデコ				110		
		⑩ タイキシャトル(米)	牡4	Devil's Bag Welsh Muffin		110				
109	49.5	⑩ バトルライン(米)	牡5	Ogysian Line of Thunder		109	109			
107	48.5	⑩ ワシントンカラー(米)	牡4	Black Tie Affair Jump With Joy	107					
106	48.0	⑩ エムアイブラン	牡6	ブレイクンスタイン ユキキ		106		106		
		トーヨーリファール	牡8	Relaunch サンダードーム	106					
105	47.5	⑩ カガヤキローマン	牡5	ブレイクウェストローマン カガヤキ	105					大井
		ビッグショウリ	牡7	ノーザンター クラフティウィフ		105				
		⑩ トーヨーレインボー(米)	牡4	Deputy Minister Double Wiggle		105				
		⑪ マジックゲーム	牡5	シンボリルドルフ サムモアマジック				105		
104	47.0	⑪ フジノマッペンオー	牡7	ブレイクウェストローマン フジノロード	104					
		ワイルドプレンダー	牡6	Wild Again ダーリングミックス	104					
		⑪ テイエムメガトン	牡4	スキャ フイタル		104				
		⑫ プレミアムサンダー(米)	牡4	Easy Goer Seattle Dawn		104				
103	46.5	⑫ キンジゴールド	牡9	ウツリタツ ヒロフスエイヴアド				103		
		⑬ グリーンサンダー	牡7	アスラン シャタイアロー		103				
		⑬ シャドウクレーク	牝5	ジェイドロバリー アイリッシュシャドウ		103				
		メイショウアムール	牡7	ウツリ フレイムスダンサー			103			
		⑬ レザームーン	牡6	アスラン ライプリング	103	103				
102	46.5	⑬ アドマイヤコル	牡7	タイエ バング				102		
		⑬ グレイトチャーマー	牡7	Mogambo ブラックスベック		102				
		⑬ メイショウモナリ	牡4	アスリート アスリート	102		102			
101	46.0	⑬ ウインドフィールズ	牡7	ウインザー カランボ		101				
		⑬ サンエムキング	牡6	ナグラスキー ナグタルコロン	101					
		⑬ フサイチヒロシ	牡5	ブレイクウェスト プリンススキ		101				
		⑬ ユーコーマイケル	牡5	ブレイクウェスト プリンススキ	101					
100	45.5	⑬ オースミレバード	牡7	アンバー マウエイシェアー		100				
		⑬ ハリスナボレオン	牡7	メキシコ メキシコ			100			
		⑬ ファッションショー	牝6	ノーザンター サニースル		100				
		⑬ オースミジェット	牡4	ジェイドロバリー デンクン	100					

以上37頭



厳しい。アインブライドのレイティングも96年のメジロドーベルより2ポンド低い106ポンドだ。ファンタジーS勝ちのロンドンブリッジについては、3戦3勝のレース内容を評価しアインブライドと並ぶ106ポンドと結論付けられた。

さて、あの馬、すなわちグラスワンダーに対する評価である。4連勝すべてで強い勝ち方を示し、朝日杯3歳Sでマークしたレコードタイムはこの時期の古馬のオープン並みかそれ以上のもので、競馬の上手さと完成度も3歳馬とは思えないもの。次元が違ふ、超の付く大物と賛辞が相次ぎ、同馬がトップであ

タイキシャロックが筆頭格も傑出馬不在

ダート

ることに異論を差し挟む余地はない。問題は「では何ポンドを与えるべきなのか?」ミホノブルボンやこれまでの朝日杯のレコードホルダーであるリンドシェーパーの56キロ(今年のレイティングでいえば112ポンド)以上であることは確実で、後はそこからどれだけ上積みするかである。ここで引き合いに出されたのがマルゼンスキー。この希代の名馬に与えられた3歳時のレイティングは過去最高の57キロ(今年のレイティングでは115ポンド)に相当。グラスワンダーについても当初はこの数値が提案されたが、マルゼンスキーの時代とは相手にした馬の層が大きく異なる

点、マルゼンスキーは同じ4戦4勝ながら、府中3歳Sでヒシビードにハナ差まで迫られている点などが指摘され、結局はこれを1ポンド上回る116ポンドで決着を見た。事実上の史上最強の3歳馬が誕生した瞬間である。奇しくも97年、マルゼンスキー没。これも何かの巡り合わせであろう。

98年は、クラシックロードでいえば牡馬ではキングヘイローの座を脅かす馬が登場するかどうか、牝馬は低いレベルでの実力拮抗状態からどの馬が抜け出すか、また、別路線ではグラスワンダーがどこまで連勝を続け強くなるのかが目玉されるであろう。

97年4月、中央・地方のダート交流重賞42競走の統一グレードが確定し、全日本的なダートの競走体系が確立されたことでダート部門は、本年度からいよいよ本格化をみることにした。ただ、地方各ブロック独自の重賞競走の整理が十分でないことから、評価の対象とする地方馬については、本年は中央の交流重賞に出走した馬のみとしたが、98年度以降は、全ての交流重賞出走馬が対象となる予定である。97年のダート部門は95年のライブラマウント、96年のホクトベガのような中心馬は不在であった。距離やコース、ナイター競馬の得手不得手等によつて着順が逆転するケースも多く、またレースの格と出走馬の格が必ずしも一致しているわけではないという現実もあり、各馬の比較がしにくかったというのが印象である。

トップはMC南部杯で2着以下を大きく引き離れたタイキシャロック。出走数が少なく重賞勝ちもこの1戦のみだが、ホクトベガのレコードタイムを大幅に更新した事実が重

く見るべきとされ、96年のホクトベガと同じ評価となる115ポンドが与えられた(但し、セックスアローウンスを考慮するとホクトベガが上位)。

以下、川崎記念を勝った後、バイで客死したホクトベガ、タイキシャロックやホクトベガと接戦を演じたキョウトシチー、暮れの東京大賞典を制したトーヨーシアトル、JRA初のダートGI馬シンコウウインディが続き、ストーンステッパー、公営のアブクマポーロ、ブリーダーズGC勝ちのデュークグランプリらが名を連ねる。タイキシャトル、ワシントンカラー、トーヨーレインボーら4歳勢も顔を覗かせており、これらの馬が98年度も順調に走ってくれるなら、かなり面白いレースが期待できるだろう。

なお、対象となった地方馬の評価については、交流重賞におけるその馬のベストパフォーマンスを採用し、アブクマポーロは帝王賞2着の111ポンド、カガヤキローマンは東京盃での105ポンドとなっている。